

種々柔軟なアプローチよ来たれ —第3セッション〈個別報告〉—

金子芳樹

第3セッションの「個別報告」は、今大会から新たに加わったカテゴリーであり、第2セッションの「個別研究」と同じ時間帯に並行して開かれた。このカテゴリーを新設した目的は、ひとつには研究成果の発表の場を広げることであり、もうひとつには、マレーシアやその周辺地域への関心を共有しながらも実際には各種実務家やビジネスマンなど幅広い分野に跨る JAMS 会員の経験や取り組みを、学術的研究の枠を越えて披露してもらう機会を設けることであった。

従来型の「個別研究」セッションにおける比較的狭義の学術研究発表に対して、体験・経験談やライフワーク的研究・取り組みの紹介、留学生による意見発表など、自由なテーマ設定やプレゼンテーション形式での発表を想定した新カテゴリーといえる。その第1回目となる今回は、上記のような狙いに沿った3つの報告がなされた。

第1報告の綱島(三宅)郁子会員による「コンラート・アデナウア財団のマレーシア関与：宗教間対話に関する2006年11月の会合と出版物を中心に」は、報告者が、宗教間対話の促進に取り組むドイツのコンラート・アデナウア財団マレーシア支部の主催による KL でのセミナー「文明の衝突：神話から現実へ？」に参加した時の様子を中心とした内容であった。ハンチントンの『文明の衝突』のレビューや同セミナーの位置付け・評価とともに、セミナー参加者との交流の様相などが多くの写真を交えて紹介された。

第2報告の岡本義輝会員(宇都宮大学大学院)による「商品開発(R&D)技術者と理数教育：マレーシアにおける R&D 技術者育成と理

数教育の課題」では、マレーシアの日系企業で長期にわたる勤務経験を持つ報告者が、日系進出企業における現地技術者の R&D に関する能力不足の原因と今後の課題を、現地企業での聞き取り調査のデータを使いながら指摘した。その中で、同国における理数系教育の問題点が実体験に基づく経験則をも含めて多角的に分析された。

第3報告の西芳実会員(東京大学)による「インドネシア映画が描くバリ島爆弾テロ事件：「楽園への長き道(Long Road to Heaven)」(2007年)から」は、2002年10月のバリ島爆弾テロ事件を題材としたインドネシア映画の分析であった。報告の中では、映画の中の幾つかのパートを実際に映像で示しながら、各部分でテロ事件がどのような描かれ方をしているかを整理・分析し、それらを通して同映画に込められたメッセージやインドネシア社会による同事件の受け止め方を読み解く試みがなされた。

当初、このセッションは報告のみで構成し、討論者によるコメントやディスカッションのための時間は特にとらない予定であったが、実際には報告内容をめぐって活発な質疑応答や意見交換がなされ、さらには他の参加者の類似の経験が披露されるなど、比較的リラックスした雰囲気の中で話題は広がった。参加者は平均して10人程度と「個別研究」セッションに比べてこじんまりした印象ではあったが、狭義の学術報告の枠を越えた個性的な報告が並び、JAMS の新たな面を引き出す興味深いセッションとなった。